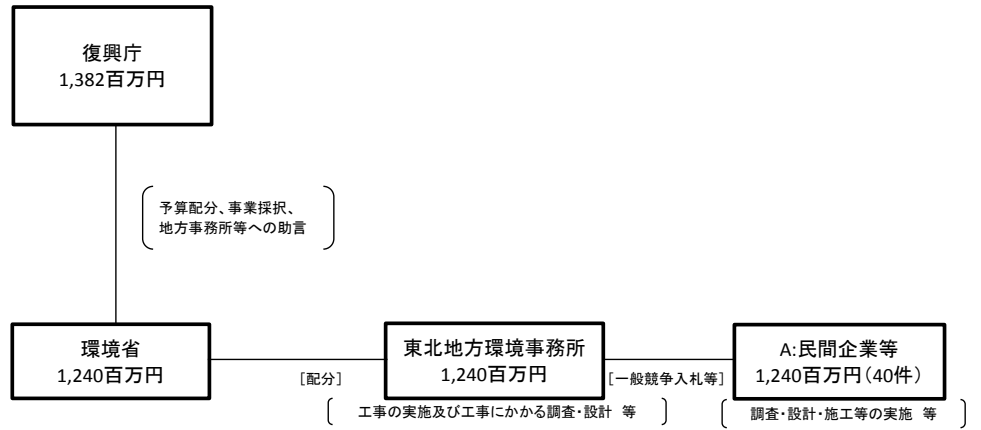


活動指標及び活動実績 (アウトプット)		活動指標		単位	27年度	28年度	29年度	30年度 活動見込	31年度 活動見込	
		三陸復興国立公園利用拠点及び公園外利用拠点の整備区域数	活動実績	箇所数	12	12	12	-	-	
			当初見込み	箇所数	9	10	11	12	12	
単位当たりコスト		算出根拠		単位	27年度	28年度	29年度	30年度活動見込		
		単位当たりコスト=X/Y X:執行額、Y:成果実績 「利用者1人あたりに係る事業費」 (成果実績=「三陸復興国立公園」利用者数実績) (平成29年度については目標値より算出)	単位当たりコスト	千円/千円	520	1,007	407			
			計算式	執行額/成果実績	924,000 /1,776	1,393,000 /1,383	1,211,000 /2,975			
政策評価、経済・財政再生アクション・プログラムとの関係	政策評価	政策								
		施策	5.生物多様性の保全と自然との共生の推進							
		測定指標	定量的指標		単位	27年度	28年度	29年度	中間目標 - 年度	目標年度 32 年度
			三陸復興国立公園内の利用拠点(集団施設地区)の年間利用者数(震災前5年間の平均年間利用者数2,975千人) (※平成29年度成果については集計中)	実績値	千人	1,776	1,383	-	-	-
				目標値	千人	2,975	2,975	2,975	-	2,975
		本事業の成果と上位施策・測定指標との関係								
	当該事業を通じて、国立公園事業施設の復旧・復興を図ることで、国立公園の利用の回復・増進を図る。									
	事業所管部局による点検・改善									
		項 目				評 価	評価に関する説明			
	国費投入の必要	事業の目的は国民や社会のニーズを的確に反映しているか。				○	地域の重要な観光資源である三陸復興国立公園の早期復旧と新たな拠点整備であり、国による整備ニーズは高い。			
地方自治体、民間等に委ねることができない事業なのか。				○	国立公園の保護又は利用のための施設の整備・管理は、自然公園法上、国が執行することが原則となっている。					
政策目的の達成手段として必要かつ適切な事業か。政策体系の中で優先度の高い事業か。				○	「東日本大震災からの復興の基本方針(東日本大震災復興対策本部、平成23年7月29日)」において国立公園の創設を核としたグリーン復興に位置づけられており、優先度は高い。					
事業の効率性	競争性が確保されているなど支出先の選定は妥当か。				○	一般競争入札を原則としつつ、業務等の性質に応じて支出先を選定している。 競争性のない随意契約については、地方公共団体との取決めに由来するものであり、妥当である。				
	一般競争契約、指名競争契約又は随意契約(企画競争)による支出のうち、一者応札又は一者応募となったものはないか。				有					
	競争性のない随意契約となったものはないか。				有					
	受益者との負担関係は妥当であるか。				-					
	単位当たりコスト等の水準は妥当か。				○	「自然公園等施設技術指針」に基づく整備が行われており、コスト等の水準は妥当である。				
	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。				○	中間段階においても、一般競争入札を原則としつつ、業務等の性質に応じて支出先を選定している。				
	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。				○	事業目的に合わせて支出されている。				
	不用率が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載)				-					
事業の有効性	繰越額が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載)				○	土地所有者や関係機関、土地利用計画等における調整により、不測の日数を要したため。				
	その他コスト削減や効率化に向けた工夫は行われているか。				○	「環境省公共事業コスト構造改善プログラム」に基づきコスト縮減が図られている。				
	成果実績は成果目標に見合ったものとなっているか。				○	成果実績は成果目標と比較して、前年と同程度で推移している。				
	事業実施に当たって他の手段・方法等が考えられる場合、それと比較してより効果的あるいは低コストで実施できているか。				○	「自然公園等施設技術指針」に基づく整備が行われており、低コスト化が図られている。				
	活動実績は見込みに見合ったものであるか。				○	活動実績は見込みと比較して達成出来ている。				
	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。				○	地域の重要な観光資源として年間利用者数は回復傾向にあり、活用が図られている。				

関連事業	関連する事業がある場合、他部局・他府省等と適切な役割分担を行っているか。(役割分担の具体的な内容を各事業の右に記載)		-				
	所管府省名	事業番号	事業名				
点検・改善結果	点検結果	三陸地域の重要な観光資源である三陸復興国立公園の利用を早期に回復するため、主要な利用拠点等における優先度の高い事業を着実に推進している。事業の実施にあたっては、工事コスト縮減に取り組んでいる。					
	改善の方向性	当該事業において、三陸地域の重要な観光資源である旧陸中海岸国立公園の主要な利用拠点等の施設を復旧することができたが、三陸復興国立公園への編入地域や東北太平洋岸自然歩道については、今後も着実な整備が必要である。					
外部有識者の所見							
対象外							
行政事業レビュー推進チームの所見							
現状通り	○平成32年度の事業完了に向け、事業の進捗管理を行うとともに、引き続き効率性に留意しつつ予算の執行に努めること。						
所見を踏まえた改善点/概算要求における反映状況							
現状通り	平成32年度の事業の完了に向け、引き続き効率的・効果的な予算の執行に努めていく。						
備考							
関連する過去のレビューシートの事業番号							
平成22年度	-	平成23年度	-	平成24年度	134	平成25年度	190
平成26年度	223	平成27年度	223	平成28年度	210		
平成29年度	復興庁 (0170)						

※平成29年度実績を記入。執行実績がない新規事業、新規要求事業については現時点で予定やイメージを記入。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)
(単位: 百万円)



費目・使途 (「資金の流れ」においてブロックごとに最大の金額が支出されている者について記載する。費目と使途の双方で実情が分かるように記載)	A.丸か建設株式会社			B.		
	費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
	直接工事費	材料・労務・直接費用等	367			
	共通仮設費	仮囲い・事務所・電気・水道・トイレ・清掃等	23			
	現場管理費	租税公課・保険料・法定福利・通信交通費・人件費	53			
	一般管理費	会社の一般管理業務に要する全ての費用	43			
	計		486	計		0
費目・使途欄についてさらに記載が必要な場合はチェックの上【別紙2】に記載					チェック	

支出先上位10者リスト

A.

	支出先	法人番号	業務概要	支出額 (百万円)	契約方式等	入札者数 (応募者数)	落札率	一者応札・一者応募又は競争性のない随意契約となった理由及び改善策 (支出額10億円以上)
1	丸か建設株式会社	6370201002380	月浜園地ビジターセンター新築工事等	486	一般競争(総合評価)	1	99.5%	—
2	阿部建設株式会社	7370001006928	(仮称)名取トレイルセンター新築工事	188	一般競争(総合評価)	5	76.8%	—
3	上北建設株式会社	1420001010987	三陸復興国立公園みちのく潮風トレイル標識設置工事	170	一般競争(総合評価)	1	80.4%	—
4	やましち建設株式会社	2370501000518	式部活大島園地田中浜公衆トイレ棟・小田の浜休憩所新築工事等	127	一般競争(総合評価)	1	92.9%	—
5	林崎建設株式会社	9400001008051	三陸復興国立公園みちのく潮風トレイル標識設置工事(大槌町～陸前高田市)	52	一般競争(最低価格)	1	99.6%	—
6	県南造園土木株式会社	4050001028750	明戸浜園地整備工事	42	一般競争(最低価格)	3	93%	—
7	株式会社ニュージェック	2120001086883	トレイルセンター新築設計業務	39	指名競争(最低価格)	3	61.3%	—
8	株式会社春秋	9420001012943	三陸復興国立公園みちのく潮風トレイル標識設置工事監理業務等	28	指名競争(最低価格)	3	95.8%	—
9	株式会社佐藤建設工業	5420001011255	階上岳山頂園地整備工事	26	一般競争(最低価格)	3	100%	—
10	特定非営利活動法人海の自然史研究所	9360005002864	南三陸・海のビジターセンター等管理等業務等	15	随意契約(その他)	—	99.9%	—